

## ドイツ語・英語の無冠詞並列名詞句について

吉田光演

0. はじめに<sup>1)</sup>

英語、ドイツ語などのゲルマン語やフランス語、イタリア語、スペイン語などのロマンス語のように冠詞 (article) が発達した言語では、一般に文中の名詞句内で冠詞 (指示代名詞、所有代名詞等を含む「限定詞: determiner」) の存在が予測される。自動車などの物や動物、人間など境界性と単位性をもつ個体を指示する名詞は可算名詞 (count noun) であり、単数・複数の区別がある。これが単数形で主語名詞句などの項に現れると限定詞が必要になる。

- (1) a. \*(The) lion is in the cage.      b. \*(Der) Löwe ist im Käfig.  
       c. \*(Le) lion est dans la cage.      d. ライオンは檻の中にいる。

日本語のように冠詞がない非冠詞言語では裸名詞 (bare noun) は問題ないが、英語・ドイツ語のような冠詞言語では (1a)~(1c) のように冠詞が必要であり、無冠詞形は非文法的となる (\* は非文を表す)。単数可算名詞 lion、Löwe は、統語的に数の素性をもつ名詞 N ではあるが、動詞の項としての名詞句範疇にはなっていない。あるいは Abney 1986 の限定詞句 DP (= determiner phrase) 分析に従えば、それらは NP であるが、項としての DP ではない。意味的には無冠詞の単数可算名詞は、集合を表すが、指示が確立されていない。複数名詞の場合、無冠詞形でも項になりうるが (“Lions are in the cage.”)、不定冠詞 a 対応の複数冠詞がゼロ形 ( $\emptyset$ ) として実現すると考えれば、冠詞の指示的役割は明確であり ( $\emptyset$  lions)、(2) のような一般化が成り立つ。即ち、冠詞言語では、主語や目的語のように指示機能が明確な項になるのは、冠詞 (限定詞) を伴った名詞でなければならない。他方、非冠詞言語では、項は裸名詞でかまわない。

- (2) 動詞の項 (指示機能): [冠詞言語] 冠詞 + 名詞 = [非冠詞言語] 名詞<sup>2)</sup>

同様の内容について、冠詞言語について定式化したものが Longobardi 1994 である。

- (3) A “nominal expression” is an argument only if it is introduced by a category D.

(項となる名詞的表現は限定詞 D がある DP だけである。Longobardi 1994: 620)

(2)、(3) の適用範囲は、同じ冠詞言語でも微妙な相違がある (Chierchia 1998)。たとえばフランス語などのロマンス語では、複数名詞でも無冠詞は許されず、de などの部分冠詞が必要であり、(2)、(3) が厳格に適用される。インドヨーロッパ語の中でもスラブ語、たとえばロシア語では名詞の単数・複数は区別されるが、冠詞はないので、(2) の区分では非冠詞言語に分類される。一方、英語やドイツ語は当然ながら冠詞言語に属し、(3) が適用されるが、実際

にはロマンス語ほど厳格ではなく、無冠詞の名詞句が現れる場合がある (吉田 2003)。

- (4) Fräulein, eine Tasse Tee bitte! 「ウェイトレスさん、紅茶1杯!」(呼格)
- (5) a. Hans ist Student.      b. John is \*(a) student. (述語名詞)
- (6) a. Er ist Universitätspräsident.      b. He is president of the university. (役職)
- (7) a. Peter ist im Gefängnis (in dem Gefängnis).      b. Peter is in jail (in the jail).
- (8) a. Sie ist im Krankenhaus.      b. She is in hospital/in the hospital. (前置詞句)
- (9) Schule hat heute mehr denn je die Aufgabe der Erziehung. (制度)  
「学校は今日では以前より多くの教育の課題を引き受けている」(Ehrich 2007)
- (10) a. Katze und Maus waren beste Freunde.      b. Cat and mouse were best friends.  
c. \*Maus war ihr bester Freund.      d. \*Mouse was her best friend. (並列)

(4) は呼格 (Vokativ) と呼ばれるもので、無冠詞であるが、呼格名詞は項として機能しない。  
(5) はコピュラ動詞の後の述語名詞の例である。ドイツ語では身分・職業を表す述語名詞は無冠詞でよいが、英語では不定冠詞を伴う。しかし、役職を表す名詞で対象が唯一的存在である場合は、(6) のようにドイツ語も英語も同様に無冠詞でよい。(7)、(8) は、名詞句が前置詞 in などの補部となる前置詞句の場合であるが、場所の指示性が弱く、「監獄にいる」「入院している」など、社会制度的場所 (ステロタイプの意味) を示す場合、英語では無冠詞となり、ドイツ語では前置詞と定冠詞の融合形 (im < in dem 前置詞 + 定冠詞 der/das) が用いられる傾向にある (Swart and Zwarts 2009)。(8) のように、イギリスでは無冠詞 in hospital、米語では in the hospital になる場合もある。(4)~(8) は主語などの動詞の項とは関係しないので、(2)、(3) には触れない。コピュラの後の名詞句は述語の一部であり、前置詞補部の名詞句も動詞の直接の項ではない。これらは述語的機能に関係する。(9) の Schule (学校) は個別具体例としては可算名詞であるが、ドイツ語では社会制度として名詞が用いられた場合、単数可算形のまま (不可算名詞、抽象名詞の如く) 主語などに使用できる。このような意味現象 (「強制転換 coercion」) については、ここでは取り扱わない (Grimm 1986, Ehrich 2006参照)。

これらに対して、(10) の並列句の名詞の無冠詞形は、主語=項としての現象であり、(2)、(3) に抵触する。単数可算名詞が並列句ではなく単独で現れた場合は、(10c, d) のように非文になる。本稿ではこのような無冠詞並列名詞句 (coordinated bare singular nominal: CBN と略) について考察し、英語とドイツ語の類似性と相違について分析することを目的とする。

## 1. 英語の無冠詞並列名詞句 (CBN) — Heycock & Zamparelli 2003

まず、CBN の特徴を概観する。ドイツ語も英語も、不可算名詞では無冠詞形が許されるので、不可算名詞の無冠詞並列は問題にならない (“Ich mag Bier (Bier und Wein).”「ビール (とワイ

ン)が好きだ])。従って、本稿では可算名詞の無冠詞並列に焦点を当てる。CBNは、一見名詞の対が決まっっていて、イディオムのように非生産的なものであるかのように見える。確かに、*needle and thread*, *husband and wife*などはイディオムだと言える (Swart and Zwarts 2009)。しかし、CBNは統語レベルでも生産的に作り出すことができるので、レキシコンに固定されたイディオムにとどまるわけではない。次の例(11)~(13)が示すように、CBNは語彙的に制限されていない (Heycock & Zamparelli 2003参照)。

(11) a. Dog and cat were once friends.      b. Cat and Dog were the only animals who had time to play. (名詞の並列の順序が入れ替え可能)

(12) a. Fork and knife were on the table.      b. Fork, knife, and spoon were on the table. (並列する名詞の数に制限はない)

(13) Old fork and silver spoon were on the table. (形容詞で名詞を修飾できる)

無冠詞並列名詞句について詳細に統語的な分析を行った Heycock and Zamparelli 2003 (以下 H & Z と略) によれば、英語の CBN は統語的に形成されるが、その際統語的・意味的な制限がかかる。H & Z の例文 (14)~(16) が示すように、英語の CBN は定表現であり (不定解釈では容認されない)、従って (代名詞と同様の) 照応形として機能するという。意味的には指示対象が唯一的に決まるものに限定されると H & Z は指摘している (唯一性条件)。

(14) \*There were [goblet and spoon] on the table. (不定文脈であり、許容されない)

(15) a. We had to set the table for the queen.      b. We arranged one crystal goblet<sub>1</sub>, one silver spoon<sub>2</sub>, and two antique gold forks<sub>3</sub>.      c. [Goblet<sub>1</sub> and spoon<sub>2</sub>] were set on the right of the plate.      d. ?\*[Forks<sub>3</sub>] were dirty. (下付番号は同一指示関係を表す)

(16) a. At the company meeting, [president and vice president] gave an optimistic speech. (定)      b. ?At the company meeting, [employee and inspector] talked about their colleagues. (不定)

CBNは、*there* 構文のような不定名詞句の文脈では許されない (14)。他方、(15) のように談話に新たに導入された名詞句の指示対象を再度指示する目的で使われた場合には、(15b) のように CBN は照応的機能を持つ。照応形は、定名詞句 (the goblet) や代名詞 *it*, *they* など、定表現で表わされる。一方 (15c) のように、裸複数名詞句は単独では照応機能を持ってない ((15c) の forks は先行する *two antique gold forks* と照応関係を結べない)。また、(16a) の *president*, *vice president* のように、指示対象が唯一的に定まる定解釈の場合には問題ないが、*employee*, *inspector* のように指示対象が不特定多数の場合には CBN は許容しにくいという。これらの性質から H & Z は CBN を “pronoun on the fly” (とっさに作った代名詞) と名づけた。

しかし、H & Z が指摘する定の CBN 以外にも、不定文脈などで CBN が現れる場合がある。

以下は、筆者が Web (Google) で検索した例文の一部である。

- (17) a. Icy and Bootsy get along very well, considering they are [dog and cat]. (不定)
- b. I have known more men destroyed by the desire to have [wife and child]. (不定)
- c. if they have [brother and sister] to help with their work... (不定)
- d. She was not in some kind of bar fooling around, if you look at the picture carefully, there are [fork and knife], and so she must be in a restaurant. (不定)
- e. The first natural bond of human society is [man and wife]. (総称)

(17a) では叙述名詞、(17b、c) では have の補部として CBN が現れ、どちらも不定文脈である。(17b、c) は (現実にはいないが) 「もし妻子をもてば」「もし兄弟姉妹がいれば」という内包的 (intentional) 意味であり、不定解釈になる。(17d) は there 構文に CBN が現れており、H & Z に対する反例である (写真内のフォークとナイフに初めて言及する箇所)。(17e) は具体的対象を指すのではなく、総称的意味を表す (「男と女というもの」)。いずれにしても、CBN については方言差、個人差があり、定文脈が多いが、不定の場合でも同様に可能だと言えるだろう。

## 2. ドイツ語の無冠詞並列名詞句 (CBN) — Ehrich 2007

次にドイツ語の CBN を分析した Ehrich 2007 の論点を見る。Ehrich 2007 は、H & Z に反対して、ドイツ語の CBN では定・不定・総称どちらも可能であると指摘している。

- (18) a. Sie packt ein Kleid und eine Bluse ein. [Kleid und Bluse] waren frisch gebügelt. (定)  
      彼女はワンピースとブラウスを荷物に入れた。(その) ワンピースとブラウスはアイロンをかけたばかりであった。
- b. Mit Annas Gepäck waren [Notebook und Brille] verloren gegangen. (定)  
      アンナの荷物といっしょに (彼女の) ノート型コンピュータとメガネがなくなった。
- (19) a. [Fernsehapparat und Computer] sind die größten Zeitkiller der Gegenwart. (総称)  
      テレビとコンピュータは現代の最大のひまつぶしである。
- b. [Mann und Frau] bleiben einander doch letztlich fremd. (総称)  
      男と女 (というもの) は互いに結局のところはよそ者通しである。
- (20) a. Jonathan sehnt sich nach [Frau und Kind]. (定・不定)  
      ヨナタンは妻と子供を恋しがっている (妻と子供というものに憧れる)。
- b. Wir suchen [Ferienhaus oder Wohnung] in Italien. (不定)  
      我々はイタリアに休暇用別荘かアパートかいずれかを探している。

(18)~(20) は Ehrich 2007 からの引用だが、この例が示すようにドイツ語の CBN は定解釈も

総称解釈、さらには不定解釈も可能である。(18a) の CBN は先行詞となる不定名詞句 ein Kleid, eine Bluse と照応する働きを担い、(18b) の CBN では、Annas Gepäck の所有者の Anna と関係して所有代名詞を補うことが可能で (ihr Notebook und ihre Brille)、これも定解釈である。(19a) の総称表現では、定冠詞 der Fernsehapparat und der Computer が補える。これは個々の個物を包括する種概念 (kind) を表す定表現 (der Fernsehapparat 「テレビという機器」、der Computer 「コンピュータという道具」) と考えられる。他方、(19b) では定冠詞ではなく、不定冠詞を補うことで総称解釈が得られる (ein Mann und eine Frau bleiben ...)。これは、「男」「女」という種の具体化・実例 (instance) が総称的 (網羅的) に挙げられていると解釈できる (「およそ男と女は誰であれ結局なじめないものだ」)。従って (19) が示すように、CBN は単純に「定冠詞の省略」とか「不定冠詞の省略」などと形式的には分析できない。(20) は sehnen (憧れる)、suchen (探す) という内包文脈と関わる動詞の補部に CBN が現れる例で、不定冠詞で補える不定解釈である。ただし不定の場合でも、ある特定の人物・物について記述する特定の (specific) 解釈と、任意の人・物にかかわる非特定の (non-specific) 解釈 (「まだ見たことのない未来の妻と子供」) がある。いずれにせよ、定冠詞が現れることはない (Ehrich 2007)。

### 3. 無冠詞並列名詞句 (CBN) は代名詞か? H & Z の問題点

以上、英語とドイツ語の CBN の機能について概観したが、その結果、H & Z の CBN = pronoun on the fly という分析では CBN を把握できないことが分かった。では、CBN をどう分析すべきか? 本節では、H & Z の統語的分析をより理論的に掘り下げることにより、代案の方向性を探る。H & Z の論点は、概略以下のようにまとめることができる。

(21) H & Z: 「CBN = 定代名詞としての DP (疑似定表現)」

(21) I. 裸複数名詞を許さないイタリア語も CBN を許容するので、CBN は NP ではなく、定冠詞随伴と同等レベルの DP である。また、NP の上に並列句 CoordP が投射され、その上に名詞の数に関する数詞句 NumP が投射すると仮定する。

(21) a. \*Gatti sono animali. 「猫 (複数) は動物だ」      b. Cane e gatto erano animali senza padrone. 「犬 (単数) と猫 (単数) は飼い主のいない動物だった」 (イタリア語)

c.  $[_{DP\ SpecD} D[_{NumP}[_{CoordP} [_{NP} dog] \text{and} [_{NP} cat]]]]$  (限定詞句 DP まで投射)

(21) II. CBN は基底の NP から DP に投射する、即ち  $N \rightarrow D$  への移動か、 $NP \rightarrow DP$  指定部への移動が非明示的に起きる。H & Z は DP 指定部への移動と分析する (gold fork and silver spoon のように形容詞修飾も可能なので、主要部 N でなく NP 範疇である)。

(21) d.  $[_{DP}[_{CoordP} [\text{dog and cat}]]_j D [_{NumP}[_{CoordP} e_j]]$

↑ \_\_\_\_\_ | DP 指定部への移動

(21) III. 元の (21c) の構造では限定詞句 DP の指示値が同定されない。従って、D に定冠詞などの語が挿入されるか、叙述関係によって複数素性 Num が D に値を与える必要がある (D への主要部移動)。H & Z によれば、CBN の NumP は単数 [-p] であり、この可能性は CBN ではない<sup>3)</sup>。または D の指定部への移動によって指示的な値が付与される。ここで、並列句 CoordP の主要部 and には並列に関係する数量素性 [+Qu] が付与される<sup>4)</sup>。CoordP が DP に移動することによって、この素性 [+Qu] の値が D 指定部に代入され、それによって DP の指示的な値が決定される。ここでは、並列句の指示対象 (dog と cat のそれぞれの文脈指示対象の指標) が入り、定表現になる。

(21) e.  $[_{DP}[_{CoordP} [\text{dog and cat}]]_{<2>[+Qu]} D_{<2>} [_{NumP}[_{CoordP} e]]_{<2>[+Qu]}$  (定解釈)

(21) に挙げた H & Z の主張は、CBN が疑似定表現であり、代名詞対応であるという前提に従えば、優れた分析であると言える。しかし、既に見たように CBN は必ずしも定表現に限らず、不定表現や総称表現として使えるので、(21) の分析ではこうした CBN のふるまいが説明できない。限定詞句 DP の値が定まれば、指示表現となり、不定名詞句ではありえない。次の (22) のように、fork and knife が先行詞の指示的値 <1+2> と照応し、この並列句が限定詞句内で D 指定部に (非明示的に) 移動することで、主要部 D が定性 <1+2> を受け取る。

(22) a fork<sub>1</sub>... a knife<sub>2</sub> ...  $[_{DP}[_{CoordP} [\text{fork and knife}]]_{j<1+2>} D_{<1+2>} [_{NumP}[_{CoordP} e_j]]$

しかし、この DP 分析では There 構文のような不定の解釈では認可されないはずである。

(23) There are  $[_{DP}[_{CoordP} [\text{fork and knife}]]_{j<1+2>} D_{<1+2>} [_{NumP}[_{CoordP} e_j]]$

(cf. \*There are the fork and knife. 定表現は非文法的)

不定解釈の場合、(23') のように DP まで投射してはおらず、数量句 NumP で終わっているはずである (または D が空)。つまり、H & Z の分析では説明できないのである。

(23') There are  $[_{DP}] D(\phi) [_{NumP} \text{Num}[_{CoordP} [_{NP} \text{fork and knife}]]]$

#### 4. 無冠詞並列名詞句 (CBN) の分析 [+division] 素性

H & Z の問題を克服するために、その長所を活かして代案を提起したい。まず、英語・ドイツ語では裸名詞は複数形においてのみ認可され、単数可算は許されない。このことから、単数可算の場合、単数素性が数量句 NumP に移動しても不適格であるが、複数名詞の場合、複数素性 PL が数量句 NumP に代入されることによって、適格になると考えてよい。

(24) a.  $*[_{NumP} \_\_\_ [_{NP} \text{dog}]]_{<SG>}$       b.  $[_{NumP} \_\_\_ [_{NP} \text{dogs}]]_{<PL>}$

c.  $*[_{NumP} [\text{dog}]_{<SG>} [_{NP} e_j]]$       d.  $[_{NumP} [\text{dogs}]_{<PL>} [_{NP} e_j]]$

つまり、項として最低限の資格は複数 [PL] 素性を付与された数量句 NumP である。ただしこのままでは指示的な値が決まらないので、定表現にはなれない（不定解釈や総称解釈は可能）。

- (25) a. Dogs were barking. (不定)      b. Dogs are faithful. (総称)

周知のように、ゲルマン語では物質名詞のような不可算名詞も無冠詞で項になれる（“Gold is rare.”）。複数名詞と物質名詞の意味的共通性は lattice (東) 構造を形成することである (Krifka 1989, Chierchia 1998, 吉田 2007)。

- (26)  $\begin{array}{c} \text{dog}_1 + \text{dog}_2 + \text{dog}_3 \quad \text{dog}_2 + \text{dog}_3 + \text{dog}_4 \dots \\ \text{複数} \quad \text{dog}_1 + \text{dog}_2 \quad \text{dog}_2 + \text{dog}_3 \quad \text{dog}_3 + \text{dog}_4 \dots \quad (\text{半}) \text{ 東 (semi-lattice)} \\ \text{単数} \quad \boxed{\text{dog}_1 \quad \text{dog}_2 \quad \text{dog}_3 \quad \text{dog}_4} \end{array}$

集合要素 a, b に対して  $\{a, b\}$  の上限 (結び)  $a+b$  が存在する構造を東 (厳密には上半東) と呼ぶ。(26) の複数部分はそのような東構造をもち、各々の要素が部分と上位の結びをもつ部分—全体 (mereology) 関係をもつ ( $\text{dog}_1 + \text{dog}_2$  は部分  $\{\text{dog}_1, \text{dog}_2\}$  をもち、それ自体  $\text{dog}_1 + \text{dog}_2 + \text{dog}_3$  の部分として機能)。複数名詞が表す指示対象は、無冠詞では一義的には定まらない ( $\text{dog}_1 + \text{dog}_2$  か  $\text{dog}_2 + \text{dog}_3$  か、あるいは別の対か決まらない)。しかし、(26) のような部分—全体構造のどこかに位置づけられ、潜在的に個体と関係し、項として機能する。特にそれが部分に区分できること (division) が項としての資格に貢献すると考える (Borer 2005)。たとえば、dogs は  $\text{dog}_1 + \text{dog}_2$  を指示し、これはまた  $\text{dog}_1$  と  $\text{dog}_2$  の部分に分かれるが、単数 dog の内部には、「犬」としての真部分はない。この区分可能性を「[+DIV] (division) 素性をもつ」と呼ぶことにしよう。不可算名詞も部分—全体構造をもつので、[+DIV] 素性が与えられる。他方、単数可算名詞は個体の集合を表すが、自らは部分—全体構造を構成しないので、[+DIV] 素性をもたない。

部分—全体構造が項としての資格と関連するとすれば、CBN が項になりうることも説明できる。dog and cat という CBN は、並列される要素は単数名詞だが、並列句として東と類似した部分構造を単数名詞との関係でもち、[+DIV] 素性を付与されるからである。

- (27)  $\begin{array}{c} \text{dog}_1 + \text{cat}_1 \quad \text{dog}_2 + \text{cat}_2 \\ \text{dog}_1 \quad \text{dog}_2 \quad \text{cat}_1 \quad \text{cat}_2 \end{array}$

では、CBN の統語的な派生はどうなるか？ H & Z と同様に CBN は並列句 CoordP を投射すると考える。ただし、H & Z と違って CoordP の主要部 and は通常複数素性 [+PL] をもつと仮定する。素性 [PL][+DIV] が移動によって数量句 NumP に転移される。

- (28)  $[_{\text{NumP}} [_{[_{\text{NP}} \text{dog}}] \text{and}_{[+PL][+DIV]} [_{[_{\text{NP}} \text{cat}}]]] \text{Num}_{[+PL][+DIV]} [_{\text{CoordP}} e_j]]$

この構造では指示対象はまだ特定されていないので、不定解釈が可能になる (29a)。他方、単数可算名詞は単数素性 [SG] をもつだけで、[+DIV] 素性がないので項にはなれない (29b)。

(29) a. (=17d) There are [<sub>NumP</sub> fork and knife Num<sub>{+PL}[+DIV]</sub> [<sub>CoordP</sub> \_]]

b. \*There is [<sub>NumP</sub> fork Num<sub>{+SG}</sub> [<sub>NP</sub> \_]]. (cf. There is [<sub>NumP</sub> wine Num<sub>{+DIV}</sub> [<sub>NP</sub> \_]].)

[+DIV] をもつ不可算名詞も項になれるので、裸の不定名詞句が項として機能する条件は次のように定義できる。

(30) 数量句 NumP の主要部 Num に [+DIV] 素性が付与されているときに、NumP が項として機能する<sup>5)</sup>。([+DIV] = [+plural] or [+mass])

不定冠詞 a が挿入された不定解釈の名詞句は Num が単数と特定され、数量化される。

(31) a. [<sub>NumP</sub> a [<sub>+qu,+SG</sub>] [<sub>NP</sub> dog<sub>{+SG}</sub>]] ([+qu] = quantificational 「量化」)

b. A dog was barking. (不定解釈:  $\exists x[\text{dog}(x) \ \& \ \text{bark}(x)]$ )

さらに、定冠詞などの限定詞 D が代入されれば、指示対象が特定される。

(32) a. [<sub>DP</sub> the<sub>{+def,+SG}</sub>] [<sub>NumP</sub> the Num<sub>{+SG}</sub> [<sub>NP</sub> dog<sub>{+SG}</sub>]] ([+def] = definite 「定」)

b. The dog was barking. (定解釈:  $\text{bark}(\iota x[\text{dog}(x)])$ )

不定冠詞付き名詞句で特定解釈になる場合、冠詞 a が D に移動し、D の指示が特定される。

(33) a. [<sub>DP</sub> a<sub>{+def}</sub>] [<sub>NumP</sub> a<sub>{+SG}</sub>] [<sub>NP</sub> dog<sub>{+SG}</sub>]] (a が Num から D に移動)

b. A dog was barking. (特定解釈=ある特定の犬)

CBN も、基本的には同様の解釈を受けると考えられる。不定解釈については既に見たが、定の解釈を受けるときには、CoordP が D 指定部に非明示的に移動して指示が定まる。

(34) [<sub>DP</sub> SpecD[goblet and spoon]<sub><2></sub>] D [<sub>NumP</sub> t Num[t]] were set on the right of the plate.

↑ \_\_\_\_\_ | ↑ \_ | [+DIV, D 指定] (定解釈)

総称解釈の場合には、D に見えない総称演算子があり、総称解釈を引き起こすと考える。

(35) a. [<sub>DP</sub> GENERIC<sub>x</sub>] [<sub>NumP</sub> [<sub>CoordP</sub> dog and cat]<sub>x</sub><sup>i</sup> [<sub>+PL</sub>][+DIV] [t<sup>i</sup>]] were friends.

b.  $\forall_x[[\text{dog}+\text{cat}(x)] \rightarrow \text{friends}(x)]$  (どの x の対も、x が犬と猫なら仲良しだ)

ここで、変項 x は個々の個体自体ではなく、複数個体の犬と猫の対 dog+cat の集合を範囲として作用する。Ehrich 2007は、CBN において束縛解釈に似た解釈は可能だが、純粋な束縛代名詞とは異なることを指摘している (Ehrich 2007の例より)。

(36) a. Jedem Schüler<sub>1</sub> nimmt die Lehrerin<sub>(sein)1</sub> [Handy und Fotoapparat] weg.

(その女性の先生は、どの生徒からも (彼の) 携帯とカメラを取り上げる)

b. \*Jeder Dichter<sub>1</sub> und jeder Politiker<sub>2</sub> hofft, dass [Dichter<sub>1</sub> und Politiker<sub>2</sub>]<sub>1,2</sub> den Nobelpreis bekommen. (下付番号は同一指示関係を表す)

(どの詩人もどの政治家も詩人と政治家自身がノーベル賞をもらえると期待する)



b'. Jeder Dichter<sub>1</sub> hofft, dass er<sub>1</sub> den Nobelpreis bekommt.

(どの詩人も自分がノーベル賞をもらおうと期待している) 束縛代名詞

c. ?In jedem<sub>1</sub> meiner Bücher haben [erste Seite und letzte Seite]<sub>1</sub> einen Knick.

(私の本のどれをとっても (その) 1ページと最後のページに折れ眼がある)

(36b) のように、直接に先行詞と関係する同じ性質の名詞を使った CBN は非文法的になる。しかし通常の代名詞では (36b') のような束縛解釈が可能である。ここから H & Z の分析とは違って、CBN は先行詞の名詞句の指示対象を直接指示する代名詞とは捉えられないことが分かる。他方 (36a)、(36c) のような束縛に関する (所有関係を通じた) 依存関係は概略容認可能である。

(37) a.  $\forall x$  [student(x)  $\rightarrow$   $\exists y$  [phone+camera(y) & Poss(x, y) & take(l, y) ]]

(どの生徒 x を取ってみても、x が「携帯とカメラである」 y を所有していて、先生 l が y を取り上げる所有物 y がそれぞれ存在する) Poss = 所有関係

これらの束縛解釈は、いわゆる E-type-pronoun (Evans タイプ代名詞) とよく似た特徴をもっている (Evans 1980)。E-type 代名詞は、量化表現の先行詞とそれに関連する束縛読みの代名詞があるが、束縛関係は成立しないものを指す (Every student<sub>1</sub> who wrote only one paper<sub>2</sub> presented it<sub>2</sub> twice. 「唯一つの論文しか書かなかった学生はその論文を2度発表した」の代名詞 it が E-type 代名詞)。CBN で依存解釈が可能になるのは、CBN が不定解釈をもちうること (どれか一つの対) と、CBN に対する隠れた所有関係に基づく。(38) の関係から見てとれるように、CBN 自体が代名詞の働きを担うよりは、先行詞と CBN の間に語用論的に所有関係を構築することができ、そこから隠れた (省略された) 所有代名詞を再認することができる。

(38) 生徒 a  $\rightarrow$  携帯 + カメラ m1 + c1 ( $\rightarrow$ : 所有関係 "his/her/sein/ihr...")

生徒 b  $\rightarrow$  携帯 + カメラ m2 + c2

## 5. 経済的表示としての無冠詞並列名詞句 (CBN)

以上、統語的には CBN は複数である故に [+DIV] 素性をもち、無冠詞で項をなす能力があることを説明した。さらに、不定と定のどちらの解釈も生み出すことも見た。本節では、なぜ CBN が用いられるかの根拠について表示の経済性の観点から考察する。特に最適性理論 (OT) が仮定するように、意味表示の複数の候補から最適な表示を選び出す経済性が働いているという点を指摘する。まず、「項としての名詞表現は [+DIV] 素性をもちねばならない (plural/mass)」という項の資格は出発点として前提する。その上で、名詞句表現について次の制約を仮定する (最適性理論については、Archangell & Langendoen 1997などを参照)。

- (39) FullINT 出力表示に余分な記号があってはいけない。  
 \*MOVE 移動操作を避けよ。  
 LessForm (表層の) 形式の小さな表示を選べ。  
 NatCoord 裸名詞句の並列関係は自然な関係でなければならない。

FullINT (=full interpretation) は一般的な制約で、出力に解釈不可能な要素を残さないというもので、英語やドイツ語では移動操作によって余分な素性を削除することができる。他方、\*MOVE は不必要な移動操作を回避する制約であり、FullINT の制約が強ければ、FullINT を守るために、\*MOVE に違反することは許される。LessForm はより形式が小さな、より表現の小さな(語が少ない)形式を優先する制約で、無冠詞 CBN を派生する上で重要な制約である。NatCoord (=natural coordination) は、並列でより自然な語の並列を好むという制約であり、裸名詞句の CBN のみに適用される (Swart and Zwarts 2009)。これは、語用論的・百科事典的な知識に基づく場合もあれば (earth and moon や brother and sister は自然な並列)、ある談話文脈で語用論的に「自然」と判定される場合もある (談話で a dog, a cat の形式で言及済みであれば、dog and cat は自然な並列になる)。

英語・ドイツ語に関して、(40) のような制約の順序を仮定する (左の重要な制約を守るために、右側の軽い制約に違反することはある)。(40) によれば、自然な並列結合であれば、小さな表示が最適である場合が許される。

- (40) 英語・ドイツ語: FullINT >> NatCoord >> LessForm >> \*MOVE

これに基づいて定解釈の dog and cat について見る。定文脈でこれは自然な結合である。

(41)

(def) dog and cat	FullINT	NatCoord	LessForm	*MOVE
[ <sub>DP</sub> the dog and the cat]			*!	
[ <sub>DP</sub> D <sup>e</sup> [dog and cat]]	*!			
<sup>[E]</sup> [ <sub>DP</sub> [dog and cat] <sub>i</sub> ][t' <sub>i</sub> , t <sub>i</sub> ]]				**

the dog and the cat は DP 並列で、FullINT は守られ、NatCoord は適用されないが、LessForm に違反する (CBN が可能)。<sub>DP</sub> D<sup>e</sup> [dog and cat] の場合、解釈できない限定詞主要部 D<sup>e</sup> が残り、FullINT に違反する。CBN の [<sub>DP</sub> [dog and cat]<sub>i</sub>...] は移動を2回含むので \*MOVE に違反するが、これは制約ランクの一番下で、他の制約はすべて守っている。特に LessForm に適合するため、これが最適のものとして出力される (<sup>[E]</sup> は最適出力。\*! は決定的な違反)。

次に不定解釈の wife and child を見てみよう。

(42)

( <sub>indef</sub> ) wife and child	FullINT	NatCoord	LessForm	*MOVE
[ <sub>NumP</sub> a wife and a child ]			*!	
[ <sub>DP</sub> [wife and child] <sub>i</sub> t <sub>i</sub> [t <sub>i</sub> ]]				!**
<sup>CBN</sup> [ <sub>NumP</sub> [wife and child] <sub>i</sub> [t <sub>i</sub> ]]				*

既に見たように不定解釈の場合、NumP 投射であると考え、 [<sub>NumP</sub> [wife and child]<sub>i</sub> [t<sub>i</sub>]] が移動を1回含むが、LessForm を守り、最適の出力となる。a wife and a child は LessForm に違反し、また、限定詞句 [DP [wife and child]<sub>i</sub> t<sub>i</sub> [t<sub>i</sub>]] は移動を2回含む、\*MOVE に2回違反している（さらに定解釈になってしまう）。

次の例は、総称解釈の場合の brother and sister である。総称解釈は文脈によって定冠詞も不定冠詞も使える場合があるが、CBN によって表せる場合もある。この場合には、LessForm が決定的になって、CBN が選択される。

(43)

( <sub>GEN</sub> ) brother and sister	FullINT	NatCoord	LessForm	*MOVE
[ <sub>DP</sub> a brother and a sister ]			*!	
[ <sub>DP</sub> the brother and the sister]			*!	
<sup>CBN</sup> [ <sub>DP GEN</sub> [brother and sister]]				

不自然な結合が入力になる場合は、CBN は最適のものとしては出力されない。不定文脈で wife and dog が入力として選ばれたとする。この組み合わせは通常自然な結びつきとは言えない。従って、a wife and a dog という出力が選ばれる。定冠詞が付いた the wife and the dog は入力の不定解釈とは異なる定の意味になるので、ここでは FullINT に違反すると考える。

(44)

( <sub>indef</sub> ) wife and dog	FullINT	NatCoord	LessForm	*MOVE
<sup>CBN</sup> [ <sub>NumP</sub> a wife and a dog ]			*	
[ <sub>DP</sub> the wife and the dog]	*!			
[ <sub>NumP</sub> [wife and dog] <sub>i</sub> [t <sub>i</sub> ]]		*!		*

イディオム的である CBN (wife and child, brother and sister など) 以外の組み合わせで (たとえば goblet and spoon)、H & Z の主張するように、定解釈で指示が唯一的な CBN が容認しやすいとすれば、それは2つの裸名詞の結びつきが付けやすいからである (不定解釈の場合、談話状況で新しい2つの対象を結び付ける条件が必要になる。従って、それは統語的というより、NatCoord 制約といった意味論的・語用論的制限によると考えた方が適切である。

さらにドイツ語の場合、文法性 (男性・中性・女性) による相違もある。これは2つの可能

性がある。冠詞形式が異なる場合、形式がより複雑になるので、裸形式が好まれるという分析がある。他方、2つの冠詞が同じになる場合（たとえば *der Dichter und der Politiker* 「詩人と政治家(男性)」、復元しやすいので無冠詞形が経済的であるという分析も可能である (*Dichter und Politiker*)。ここでは前者を採用して、定の *Mann und Frau* (男と女) の例を見る。定冠詞付き *der Mann und die Frau* と *Mann und Frau* を比べれば、後者が男性定冠詞 *der* と女性定冠詞 *die* の2つがなくて済むので経済的である。よって *Mann und Frau* が出力される。

(45)

( <sub>def</sub> ) Mann und Frau	FullINT	NatCoord	LessForm	*MOVE
[ <sub>DP</sub> der Mann und die Frau]			**!	
[ <sub>DP</sub> [Mann und Frau] <sub>i</sub> [t <sub>i</sub> ]]				*

不定冠詞も同様である (*ein Hund und eine Katze* 「一匹の犬と猫」(男性・女性) → *Hund und Katze*) この見方が妥当なら、冠詞の相違がない英語より、性による冠詞の区別をもつドイツ語の方がより CBN が経済的で好まれる(定・不定・総称)という予測が成り立つ。しかし、これは多くのデータに当たらねばならないので、今後の研究課題としたい。

## 6. まとめ

H & Z や、Ehrich 2007 などの先行研究で英語・ドイツ語の CBN は検討されているが、それらは統語分析に偏りすぎるか (H & Z)、または説明力が不足している (Ehrich 2007)。CBN の特異なふるまいを記述し、その存在理由を説明するには、統語的・意味的・語用論的な総合分析が必要である。本稿では、DP 分析と複数意味の意味論的分析、および定・不定の語用論的分析に基づいて英語とドイツ語の CBN を全体的に分析した。同時に、裸名詞と競合する冠詞付きの並列形式との比較という観点も重要である。CBN は、文脈的に意味解釈が容易である(復元できる)という限りにおいて、より経済的な形式を好むという言語普遍的な制約に基づく選択である。その意味で最適性理論に基づく分析は有力な方法であると言えよう。

## 注

- 1) 本研究は、科学研究費補助金(基盤C(21520441))「ドイツ語・英語の無冠詞名詞の統語論的・意味論的対照研究」吉田光演)による研究助成に基づいている。
- 2) Chierchia 1998 の名辞写像パラメータもこれに関連する (Chierchia 1998)。
- 3) しかし、[dog and cat] などの並列句の数は通常複数扱いであるから、数素性が -PL であるという H & Z の仮定は(各名詞が単数であることに基づくのだが)奇妙である。ドイツ語では興味深いことに、CBN で単数扱いの場合がある ([Mann und Frau] *ist* im Kern unseres Wesens. (Webより))。この場合、Mann und Frau は集合として不可算化している。

- 4) CBN は他の量化表現との関係で作用域の相互作用を起こすことがあるので、量化素性  $qu$  が仮定される。たとえば“Dog and cat chased a rabbit”で、犬と猫が共同してウサギを追いかける解釈（並列句の作用域が小）と、犬と猫が別々に別のウサギを追いかけている読み（並列句の作用域が大）とがある。
- 5) イタリア語、フランス語のように裸複数名詞句を容認しないが、CBN が可能な言語では複数素性、[+DIV] だけではまだ不十分である（裸複数も [+DIV] をもつから）。そのような言語では裸複数名詞句 (NumP) と、CBN とでは句の投射の大きさが異なるのかもしれない（CBN は [+DIV] で、かつ、DP 相当）。

### 参考文献

- Abney, S. 1987. *The English noun phrase in its sentential aspect*. Doctoral dissertation, MIT.
- Archangell, D. and Langendoen, D. T. 1997. *Optimality Theory. An Overview*. Mass.: Blackwell.
- Borer, H. 2005. *In Name Only*. Oxford: Oxford Univ. Press.
- Chierchia, G. 1998. Reference to Kinds across Languages. *Natural Language Semantics* 6, 339-405.
- Ehrich, V. 2006. *Zum bloßen Singular (Bsing) im Deutschen*. Ms. Univ. Tübingen.
- Ehrich, V. 2007. Der Bloße Singular in koordinativen Verknüpfungen. *Neue Beiträge zur Germanistik* Band 6/3, 9-30.
- Evans, G. 1980. Pronouns. *Linguistic Inquiry* 11, 337-362.
- Grimm H.-J. 1986. *Untersuchungen zum Artikelgebrauch im Deutschen*. Leipzig: VEB.
- Heycock, C. and Zamparelli, R. 2003. Coordinated bare definites. *Linguistic Inquiry* 34, 443-469.
- Krifka, M. 1989. *Nominalreferenz und Zeitkonstitution*. München: Wilhelm Fink.
- Longobardi, G. (1994): Reference and Proper Names. *Linguistic Inquiry* 25, 609-665.
- de Swart, H. and Zwarts, J. 2009. Less form - more meaning: Why bare singular nouns are special. *Lingua* 119, 280-295.
- 吉田光演. 2003. 冠詞の意味論、月刊「言語」32、No.10、58-65.
- 吉田光演. 2007. 名詞句の可算性と不可算性の区別. 欧米文化研究 14, 33-48.
- 吉田光演. 2008. ドイツ語の無冠詞+可算名詞の分析. 日本独文学会2008年度秋季研究発表会、口頭発表（岡山大学）。

## Koordination der bloßen Singulare im Deutschen und im Englischen

YOSHIDA Mitsunobu

In diesem Aufsatz untersuche ich die Koordination der bloßen Singulare im Deutschen und im Englischen. Der bloße Singular in diesen Sprachen darf normalerweise nicht in einer Argumentposition vorkommen (\*“Dog is barking”, \*“Hund bellt”). Aber wenn zwei bloße Nomina im Singular koordinativ verknüpft werden, können sie dort auftreten. (“Dog and Cat were best friends.”, “Hund und Katze waren gute Freunde.”).

Nach Heycock & Zamparelli 2003 (H&Z) gehören bloße koordinative Nomina im Singular (BCN) zu definiten pronominalen Ausdrücken, die syntaktisch Determiner Phrasen (DPs) darstellen und semantisch spezifische Individuen denotieren und sich anaphorisch auf Antezedenzien im Text beziehen können. Im Gegensatz zu H&Zs Analyse lassen sich jedoch auch Fälle beobachten, in denen die BCN nicht nur definite, sondern auch indefinite und generische Verwendungen aufzeigen:

- (1) At the company meeting, [president and vice president] gave an optimistic speech.
- (2) I have known more men destroyed by the desire to have [wife and child].
- (3) [Fernsehapparat und Computer] sind die größten Zeitkiller der Gegenwart.

(Ehrich 2007)

Weil der bloße Singular generell von einer Argumentposition ausgeschlossen ist, liegt das relevante syntaktisch-semantische Merkmal in einem [+DIV]-Merkmal (division/plural), das den zwei koordinativen Nomina im Singular einen Argument-Status verleihen kann. Die Struktur der BCN sieht etwa wie folgt aus:

- (4) [<sub>DP</sub>] [<sub>NumP</sub>] [<sub>NP</sub> wife] and [<sub>+plural</sub>][<sub>+DIV</sub>] [<sub>NP</sub> child] ; Num [<sub>+plural</sub>][<sub>+DIV</sub>] [<sub>CoordP</sub> e<sub>j</sub>]

Je nach dem Kontext kann man die BCN dann verschiedenartig (definit/indefinite/generisch) verwenden. Der Vorteil der BCN liegt im Vergleich mit einer vollständigen Nominalphrase darin, dass ein und derselbe Sachverhalt in ökonomischer Art und Weise ausgedrückt werden kann:

- (5) a. Mit Marias Gepäck waren [ihr Computer und ihre Brille] verloren gegangen.
- b. Mit Marias Gepäck waren [Computer und Brille] verloren gegangen.

Optimaltheoretisch gesehen, ist (5b) optimaler als (5a), weil der Satz (5b) mit wenigen Formen ohne Artikel aussagen kann, was der Satz (5a) mit zwei Artikeln aussagt.